

立憲民主党

The Constitutional Democratic Party of Japan

あべともこニュース

遅すぎた児童虐待防止法案審議で安倍政権の本気度を問う

◆審議はまだまだ尽くされないまま。結愛ちゃんの虐待死を受けて昨年阿部ともこが中心で取りまとめた5野党1会派による共同提出の児童虐待防止法改正・児童福祉法改正案(野党案)が、政府案と共に衆議院厚生労働委員会で審議されました。

その間、新たに心愛ちゃんの命が奪われた痛恨の審議です。

阿部ともこは政府案への質疑で政府のやる気を問う一方、政府案より一歩も二歩も踏み込んだ野党案の内容を際立たせるべく、丁寧な答弁に努めました。

親の体罰禁止、子どもの意見を受け止める仕組み、虐待と家庭内暴力の関係、児童相談所を増やす予算付けや人材養成と論点は多岐にわたり、議論は尽くされていないと質疑を求めましたが、政府案に野党側の修正を一部盛り込む形で与野党が合意。24日に採決されました。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県 12 区 (藤沢市・寒川町)
 当選 7 回、東京大学医学部卒業、小児科医、あべともこ子どもクリニック (湘南台) 理事長
 現在、厚生労働委員会・原子力問題調査特別委員会筆頭理事



https://twitter.com/abe_tomoko



<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ 検索



厚生労働委員会で答弁に立つ

子どもの声を聴き、代弁する仕組み(アドボケイト制度)を一刻も早く作るべきと質し、政府案を前進させました。

◆安倍総理に「子どもの声を聴け」

修正案には圧倒的に不足している児童相談所を区や中核市に設置することも盛り込まれましたが、合意に至らず見送りに。けれども地域に身近なところに設置してこそその機動力を発揮でき、必要な財政手当ては国の役割です。

採決前の総理への質問には阿部ともこ子が立ち、結愛ちゃん、心愛ちゃんの命がけのメッセージに迅速に応えられなかったことを真摯に反省すべきとし、

子どもの声を聴き、代弁する仕組み(アドボケイト制度)を一刻も早く作るべきと質し、政府案を前進させました。

◆「戦争」解決発言に野党辞職勧告

丸山穂高議員が、北方四島交流訪問事業で、「戦争でこの島を取り返すことに賛成か」「戦争しないかどうか」も聞かないか」と元島民に絡んだ事件で、阿部ともこは15日の内閣委員会で「憲法は武力によらない紛争の解決を掲げ、国会議員には憲法擁護義務が課せられている。外交上も大きな問題を来す」と宮腰光寛大臣に閣僚の見解を質しました。大臣は「誠に遺憾」と答弁。

野党は「辞職勧告決議案」を提出し、与党は単に戒めるだけの「けん責決議案」を提出。その後も失態が発覚しています。

交流事業は内閣府予算によるものであり、内閣閣僚および与党も、返還努力に後ろ脚で砂をかけた議員に厳正な対応を求めるべきです。

あべともここと共に歩む会後援会入会のご案内及びボランティアスタッフ募集中!

特定の企業や団体などに依存しないあべともこの活動は、後援会の年会費やカンパによって支えられています。あべともこの活動にご支援頂ける方は、お気軽に事務所にお問い合わせください。

立憲民主党神奈川県連
 〒231-0012
 横浜市中区相生町 4-69-4F
 TEL 045-228-8591
 FAX 045-228-8592